

2020年度（令和2年度） 自己評価結果公表シート

自令和2年4月1日～至令和3年3月31日

学校法人 敬愛学園
岸部敬愛幼稚園

1. 本園の教育目標

教育の目的は、立派な人格を持った人間を育成することです。そして、人格の基礎は幼児期に形成されます。岸部敬愛幼稚園は幼稚園指導要領と、浄土真宗の生活信条、そして親鸞聖人の精神にもとづき、すなおで明るく、やさしく、元気のよい、ほとけの子どもを育てます。

- ★ほとけさまを拝む、明るくて豊かな心を持った子ども
- ★健康で、心身ともに活動的な子ども
- ★お友だちと仲良くあそび、だれからも愛される子ども
- ★「ありがとう」と、すなおによるこび、たたえる子ども
- ★よく聞く態度と、理解力、創造力をもった子ども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教育目標に沿った保育を展開するうえで、教師が環境に配慮した保育計画をたて、園児の主体的な関わりを軸とした保育を実施することで、園児自身が自ら育つことができるように遂行していく事を重点目標とする

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園の教育課程の実施にあたり教職員間の共通理解を図る。	日常から意識できるように心掛け、職員会議や学年会議等で相談のもとカリキュラムの設定を行っている。
幼稚園を取り巻く状況をふまえて、今後の計画を立てる。	幼稚園を取り巻く状況や保護者のニーズが徐々に変化しつつある中、建学の精神と子どもの育ちを軸として教職員間で検討する。
教育の質の向上のために、全教職員への指導に取り組む。	幼児の発達段階を踏まえて、子どもの成長や保育の進め方について意見交換し合う機会を数多く持ち、保育の質向上に役立てる。コロナ禍で通常とは異なる保育の形となるが、本園が目指す幼児像は微塵もぶれないことを目標に置き日々の保育にとりくむ
危機・安全管理を図る	自然災害発生時の対応について、2次災害への配慮を意識した中で避難訓練や万が一への備えを施していく。又、危機管理委員会主導での情報収集に引き続き取り組んでいく。
新型コロナウイルス感染対策と集団保育のバランスを保ちながら保育に取り組む	コロナ対策の肝要は3密回避とマスク着用であるが、幼児は集団の中で成長する側面があるため「密集」「密接」は生まれやすいが、せめて「密閉」した空間を創り出さないように年間を通じて意識していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルスの影響で春先は2ヶ月間臨時休園、6月は分散登園となったが、取り組むべき課題について全教職員が共有することで、教育目標の達成に向けて努力・成長する姿が見えた。教員一人ひとりの新型コロナ感染への危機意識は高く行動に移すことができた。お陰様で今年度園内ではクラスター化する事はなかった。その一方で、感染への不安と例年とは異なる保育の姿にジレンマを感じる職員もいたが、園として目指す幼児の目標像をイメージすることで日々の難局を乗り越えることができた。保護者との関係については、極力接触を回避していた事により親密な関係に発展することもなければ、トラブルになることもなかった。今後は保護者とのコミュニケーションを如何にして図っていけるかが大きな宿題とも言えそうである。今後も継続的に、子ども・保育者・保護者が互いに成長していく事の意識を忘れず、毎日の努力を重ねていくことが大切だと感じる。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教員の資質向上	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についての学びを引続き重ねていくこと。その為には、子どもの主体性を育む環境構成について意見を出し合い、毎日の保育ですぐに実践できるだけの引き出しを数多く持てるようにする。ただし研修機会が激減した事により1・2年目の経験の浅い職員へのフォローはこれまで以上に必要と感じる。
危機・安全管理体制	地震・火災などの災害時を想定した様々な準備（避難訓練、災害備蓄品、マニュアル）の定期的な確認と見直しの他に、保護者も巻き込んで“園児引き渡し訓練”の実施に向けて本格的に検討に入る。
園環境の改善	敷地内の危険箇所を見つけ必要であれば改善する。築17年が経過したことによる経年劣化が疑われる設備については順次入れ替えていく。
園児に接する時の基本姿勢の徹底	適正な言葉遣いを意識し、親切かつ丁寧な接し方を再確認の上、常に教職員が手本となり行動で示す。
新型コロナウイルス対策	終息宣言が出されるまで従来の対策を地道に重ねていくこと。 園でクラスターを発生させないこと。
コロナ禍における保護者とのコミュニケーションをどのようにしていくか	出来るだけ幼稚園の情報を発信し保護者に伝えていく *ホームページ、動画配信サービスの活用 *園だより、クラスだよりでの情報発信 *個人懇談会での意見交換 *他に方法があれば模索していく

6. 学校関係者の評価

総体的に学校運営は良好であると評価する。新型コロナウイルスの影響が長期に及んだ影響で臨時休園となったり、行事の大幅変更や削減をしたりで例年に比べると寂しく感じたが、それでも子ども達が毎日楽しみに通園している姿は微笑ましく、その成長ぶりは素晴らしいと感じる。感染への懸念は今後も決して油断できるものではないので引き続き緊張感を持って対応にあたって頂きたい。又、園児一人ひとりに向き合う教職員の態度は評価できる。日常的に幼稚園、園児、保護者が「共に育ちあえる」関係性を持って日常の保育を進めていることが分かる。少子化による園児数の減少が予見される中で、今後も地域にある幼稚園としてより存在感を増していただきたい。特にコロナ禍において緊張感が続く人々の気持ちを、仏教の考えを通じて穏やかにさせてくれる姿勢は敬愛幼稚園にしかできない唯一無二のものとして今後も必要性を感じる。

7. 財務状況

毎年、公認会計士の監査を受け、適正に運営されていると認められている。